



こもれび

2017年12月27日発行 NO.12
長崎県立佐世保南高等学校図書館
2年1, 2, 3組図書委員



五箇公一 著 小学館

「終わりになき侵略者との闘い 増え続ける外来生物」

推薦者 2-3 竹川陽人

外来生物についてどのくらい知っていますか？

気がつけば私たちの身近にある自然のほとんどは外来生物に覆われるようになってしまいました。

この本は、近年話題になっている外来生物種に焦点をあて、私たちがどのように外来生物と向き合っていくべきか考えさせてくれる本です。



「クリスマスと探偵と」

伊坂幸太郎 著 / マヌエーレ・フィオール 絵 河出書房新社

推薦者 2-3 小川桃子

主人公の探偵カールはクリスマスの夜、有る人物の尾行をしていました。その途中で出会った謎の青年…。

「探偵」「男二人」「巧妙な構成」「親子愛」「ラストのどんでん返し」が見所です。手軽に読める絵本タイプなので、あたたかいタッチの絵とともに楽しんで下さい。



田中敬一 著 幻冬舎文庫「ラストレシピ 麒麟の舌記憶」

推薦者 2-2 木村航太

主人公・佐々木の仕事は「最期の料理請負人」である。死ぬ前にその人の人生の思い出に残る料理を「再現」するという仕事だ。そんな彼がある日請け負った仕事は、数十品目からなる中国の伝統宮廷料理「満漢全席」日本版にあった。70年前に作られた幻の204品目からなる「大日本帝国食全席」を再現せよというものだった。失われた70年前のレシピを調べる中で佐々木はある事実気づく。彼は無事レシピを再現することができるのか。

追伸：二宮和也主演で映画化。上映中です。



外山滋比古 著 PHP研究所「こうやって、考える。」

推薦者 2-2 古場和楓

「アイデアが出ない」「勉強したことが頭に入らない」などで行き詰ったときのヒントが書かれた本です。

著者が「発想力や思考力を磨くヒントになるような箴言集を今までの著作から抜粋して作らせてほしい」と依頼されて作られたこの本は、1ページの中に1つのアイデアがまとめられているため、わかりやすく、長い文章が苦手な人でも読みやすくなっています。



フォークルック幹治 著 河出書房新社

「ネイティブが感動する英語にない日本語」

日本ならではの『いい言葉』を知っていますか？

推薦者 2-1 井手敦子

「行ってきます」「忘れ物」「三日坊主」…私たちはこういう言葉を、普段の会話の中で何気なく頻りに使います。今挙げた3つの言葉、実はすべて英語にはないものなんです。ほかを挙げるとすれば、「妖怪」「甘える」「おつまみ」もそうなんです。こういった日本独自で生まれた「英語にはない日本語」。私たちがこれを普段から会話で使っていることは、とても誇らしいことなのではないかと思えます。今回私が紹介したい本は、そのような日本ならではの「いい言葉」がぎゅっとつままったもの。このなかからいくつか、私が好きな独自の日本語を紹介したいと思います。



まずは「地団駄を踏む」。これは悔しいときによく使う表現ですね。「地団駄」というのは「地^じたたら^{たら}い^いも^もじ^じ」(鑄物師が足で踏んで空気を送る大小のふいご)の音に変化したもの」だそうです。地団駄を踏む、というとまるで動作が目に見えるようです。次に「神隠し」。「人間以外の存在により子どもが連れ去られた」という少しオカルト的な言葉ですね。これを英訳すると「A child's sudden disappearance (子どもが突然いなくなった)」となるそうです。英語だとオカルト感がずいぶん減りますね。もう一つは「つんつるてん」。意味は「衣服の丈が短く手足や膝が見えていること」だそうです。私はこんな日本語があることをこの本で初めて知りました。「つんつるてん」って少し可愛らしくありませんか？(笑)

私たちが失いかけていた言葉の意味だけでなく、由来も載っており、「これはそういう意味だったのか！」と納得したものも多かったです。

この本の著者は、アメリカ人の父と日本人の母にこのような言葉の意味を通訳したこともあるそうです。イラストも可愛らしく、見るだけでも楽しいので、図書館に来てぜひ手に取ってみてください。

新着図書

書名	著者名	出版者
ホワイトラビット a night	伊坂 幸太郎 著	新潮社
クリスマスを探偵と	伊坂 幸太郎 文 マヌエーレ・フィオール 絵	河出書房新社
キラキラ共和国	小川 糸 著	幻冬舎
ホイッスルが鳴るとき	鈴木 和音 著	幻冬舎
千の扉	柴崎 友香 著	中央公論新社
ゴースト	中島 京子 著	朝日新聞出版
ふたご	藤崎 彩織 著	文藝春秋
編集ども集まれ!	藤野 千夜 著	双葉社
100億人のヨリコさん	似鳥 鶏 著	光文社
冷蔵庫を抱きしめて	荻原 浩 著	新潮社
砂漠	伊坂 幸太郎 著	実業之日本社
わたしの本当の子どもたち	ジョー・ウォルトン 著 茂木 健 訳	東京創元社
氷壁	井上 靖 著	新潮社
孤高の人 上・下	新田 次郎 著	新潮社
ラストレシビ 麒麟の舌の記憶	田中 経一 著	幻冬舎
今からあなたを脅迫します	藤石 波矢 著	講談社
ペガサスの解は虚栄か?	森 博嗣 著	講談社
サクラ咲く	辻村 深月 著	光文社
ビッグマリオン	バーナード・ショー 著 小田島 恒志 訳	光文社
良心をもたない人たち	マーサ・スタウト 著 木村 博江 訳	草思社
「すぐやる人」と「やれない人」の習慣	塚本 亮 著	明日香出版社
聖地巡礼 コンティニュード	内田 樹 / 釈 徹宗 著	東京書籍
こうやって、考える。	外山 滋比古 著	PHP 研究所
85歳のチアリーダー	滝野 文恵 著	扶桑社
十歳までに読んだ本	西 加奈子 / 益田 ミリほか著	ポプラ社
文藝春秋オビニオン 2018年の論点 100		文藝春秋

12歳の少年が書いた量子力学の教科書	近藤 龍一 著	ベレ出版
終わりなき侵略者との闘い 増え続ける外来生物	五箇 公一 著 THE PAGE編集部 編	小学館クリエイティブ
介護というお仕事 世の中への扉	小山 朝子 著	講談社
スイカのタネはなぜ散らばっているのか タネたちのすごい戦略	稲垣 栄洋 著 西本 真理子 絵	草思社
「好き」と「似合う」がかなう色の組み合わせ BOOK	岩崎 沙織 著	池田書店
ネイティブが感動する英語にない日本語 日本ならではの「いい言葉」を知っていますか?	フォークルック幹治 著	河出書房新社
義足のアスリート山本篤	鈴木 祐子 著	東洋館出版社
正しい本の読み方	橋爪 大三郎 著	講談社
ハーバード日本史教室	佐藤 智恵 著 アンドルー・ゴードン ほか述	中央公論新社
地球46億年の秘密がわかる本	地球科学研究倶楽部 編	学研プラス
ドキュメント宇宙飛行士選抜試験	大鐘 良一 著 小原 健右 著	光文社
汗はすごい 体温、ストレス、生体のバランス戦略	菅屋 潤壺 著	筑摩書房
青空に飛ぶ	鴻上 尚史 著	講談社
忘れられた巨人	カズオ・イシグロ 著	早川書房

2017話題の本

第157回芥川賞 (2017年上半期) 沼田真佑「影裏」文藝春秋
候補 今村夏子「星の子」 / 温又柔「真ん中の子どもたち」 / 古川真人「四時過ぎの船」

第158回芥川賞 (2017年下半期) 未定
候補 石井遊佳「百年泥」 / 木村紅美「雪子さんの足音」 / 前田司郎「愛が挟み撃ち」
宮内悠介「ディレイ・エフェクト」 / 若竹千佐子「おらおらでひとりいぐも」

第157回直木賞 (2017年上半期) 佐藤正午「月の満ち欠け」岩波書店
候補 木下昌輝「敵の名は、宮本武蔵」 / 佐藤巖太郎「会津執権の栄誉」 / 宮内悠介「あとは野となれ大和撫子」 / 柚木麻子「BUTTER」

第158回直木賞 (2017年下半期) 未定
候補 彩瀬まる「くちなし」 / 伊吹有喜「彼方の友へ」 / 門井慶喜「銀河鉄道の父」
澤田瞳子「火定」 / 藤崎彩織「ふたご」

2017本屋大賞 恩田陸「蜂蜜と遠雷」幻冬舎
ノミネート 森絵都「みかづき」 / 塩田武士「罪の声」 / 小川糸「ツバキ文具店」
村山早紀「桜風堂ものがたり」 / 原田マハ「暗幕のゲルニカ」 / 西加奈子「i」
森見登美彦「夜行」 / 村田沙耶香「コンビニ人間」 / 川口俊和「コーヒーが冷めないうちに」

